

科目名	地誌学	科目責任者	仁尾 泰明
課題と試験担当教員	仁尾 泰明		
履修方法	T テキスト学習		
ナンバリング	CTETC340		

■ 科目概要

地誌学は地理学を構成する一つの学問分野ですが、地理学の学問体系においてどのような学問でしょうか。

地理学は系統地理学と地誌学（地域地理学）から構成されます。地球上には、自然的にも人文的にも著しい地域差が存在します。これは地理的条件を反映したものです。地理的条件には、地形、気候、土壌、植生、天然資源などの自然的条件と、文化・伝統、政治、社会、経済などの人文・社会的条件が含まれます。系統地理学は、地理的条件の生成とメカニズム、そして地理的条件の間関係について分析し、地球上の多様な現象を説明するとともに、一般的な原理を導き出すことを目的とします。このような系統地理学は、自然的条件を対象とする自然地理学と、人文・社会的条件を対象とする人文地理学に大きく区分されます。一方、地誌学は、系統地理学の成果を利用しながら、地域（場所）を総合的に理解することを目指します。

地誌学は地域に関する総合的な科学であります。すなわち、地誌学は地理的条件の複合性を構造的に把握して、地域現象を説明し、地域性を明らかにします。それぞれの地域には、自然環境の違い、人種・民族の違い、宗教などの文化的伝統の違い、社会組織や社会制度の違い、経済の仕組みの違い、産業の種類の違い、食料の生産と消費の形態の違いなどにより、地域の個性（地域性）が存在します。地誌学は、人間の日常生活の舞台である身の回りの地域から世界全体まで、さまざまな規模（スケール）において、地域を認識することの重要性を説明し、そのための知識と方法を提示します。地誌学は、地域に関する情報や知見を整理し、蓄積し、説明することによって、地域に関してバランスのとれた総合的な理解を深めることに貢献できます。（以上の系統地理学と地誌学の説明は、矢ヶ崎典隆他『地誌学概論』朝倉書店、2007による）

世界の各地域には人々の様々な生活が見られます。人々はそれぞれの地理的環境と深く関わり合いながら、それらを生活の舞台として自分たちの知恵と努力によって特色ある生活を展開しています。まさに、地域は人間の姿を映す鏡と言えます。世界の諸地域や国を単位として世界の人々を理解し、それらの知識を身に付けるとともに、地理的なものの見方や考え方を養っていきます。

■ 到達目標

1. 地域は人間の姿を映す鏡でありますから、世界の諸地域や国を単位として世界の人々を理解し、それらの知識を身に付けます。
2. 世界の様々な事象が関係し合って、人々の生活や地域が成り立っていることを把握し、地理的なものの見方や考え方を養います。

■ 科目の計画・内容

学習範囲 該当する章など	学習内容
第1章	世界のとらえ方 1-1地誌学の本質と研究法 1-2世界の中の日本 1-3地球の自然環境
第2章	東アジア 2-1東アジアの人口 2-2東アジアの産業 2-3東アジアの中の日本
第3章	東南アジア・南アジア 3-1東南アジア・南アジアの概観—自然と社会—

学習範囲 該当する章など	学習内容
	3-2東南アジア・南アジアの諸国 3-3東南アジア・南アジアと日本との関係
第4章	西アジア・北アフリカ 4-1西アジア・北アフリカの概観 4-2西アジア・北アフリカの諸国 4-3西アジア・北アフリカと日本との関係
第5章	中・南アフリカ 5-1アフリカ捉えるために 5-2植民地化の歴史とアフリカの自然 5-3アフリカと日本との関係
第6章	北ユーラシア 6-1北ユーラシアの概観 6-2北ユーラシアの諸国 6-3北ユーラシアと日本との関係
第7章	ヨーロッパ 7-1ヨーロッパの概観 7-2ヨーロッパの諸国 7-3ヨーロッパと日本との関係
第8章	北アメリカ 8-1北アメリカの概観—自然と人間—
	8-2北アメリカの産業立地と都市の発達 8-3北アメリカと日本との関係
第9章	中・南アメリカ 9-1中・南アメリカの概観 9-2 ラテンアメリカの諸国 9-3ラテンアメリカと日本との関係
第10章	オセアニア・南極 10-1オセアニア・南極の概観—オセアニア的世界とは— 10-2オセアニア諸国・地域
第10章 むすび	10-3オセアニアと日本との関係 「世界からみた日本」に向けて

■ 学習方法・評価

種別	評価基準
試験	まず、教科書で試験範囲を正しく把握します。それを踏まえて、試験範囲の内容をよく理解しながら、熟読して下さい。しかも試験範囲のどこから出題されても解答できるように、試験範囲をしっかりと読みましょう。決して山をかけないように。試験勉強を通して、教師になるために必要な知識と技能を確実に身に付けるのだという気持ちで臨むとよいです。 教科書の内容について、その理解と習得を問います。
レポート	レポートを作成する際に最も大切なことは、与えられた課題の題意をしっかりと把握することです。課題が何を求めているのか、正しく認識し、それに対応した論理構成でレポートを組み立てていきます。なかには、これが不十分のいわゆる「的外れのレポート」が時々見受けられます。 次に、大切なことは、自分の言葉で綴るということです。教科書の該当する箇所をそのまま丸写しにしたものや、教科書や参考書の文章を切り貼りした継ぎはぎのものがあありますが、いくら課題の題意を把握していても、レポートの価値はなくなってしまいます。平易な表現でもよいですから、内容をしっかりと理解して自分なりの表現や言葉づかいでまとめて下さい。 さらに、大切なことは下書きの段階で十分推敲を行うことです。下書きをよく読み、レポートを何回もチェックしましょう。推敲を何度も行うことによって、レポートを書くことに慣れ、また、レポートの完成度が高くなります。推敲の時間も十分取るように心掛けましょう。

■ 評価方法

- 科目試験：70%
- レポート：30%

■教科書

書名：日本からみた世界の諸地域 新版
著者名：河上・田村
出版社名：原書房
出版年：
版：
刷：
ISBN：

■参考書

末尾6頁に参考文献を挙げてあります。必要に応じて、利用して下さい。

■履修上のアドバイス

高等学校教育において「地理」を履修しなかった人は、高等学校用の『地理用語集』『地理事典』『地図帳』などを手元に用意して活用されるとよいでしょう。

それでも不十分な場合は、大学教養用の『地理辞典』（二宮書店）『最新地理学用語辞典[改訂版]』（原書房）『人文地理学辞典』（朝倉書店）『人文地理学事典』（丸善出版）などがあります。

教科書を丁寧に読み、わからない語句や用語がないように辞書などでよく調べ、その上で内容全体も正確に把握して下さい。大切なことは、通読のレベルにとどまらず精読することです。

■自習時間

個人差がありますが、レポート1課題あたりの作成に20時間程度、科目試験の勉強に40時間程度が考えられます。

■担当者のプロフィール

1949年に北海道函館市生まれ、神奈川県横浜市で育つ。
関心を持つ分野は「地理学」「地理教育」「社会科教育」
好きな言葉は「使命を自覚するとき、才能の芽は急速に伸びる」